2001 年（平成 13 年）10 月 1 日創刊　　2022 年（令和 4 年） 1 月 1 日発行

2022 年
新年号

加戸病院通信　第 78 号

ハンド　イン　ハンド
hand in hand

特定医療法人弘友会　〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子 771 番地 TEL:0893-44-5500 FAX:0893-44-3300
加戸病院　E-mail:koyukai@kato-hp.jp　URL:http://kato-hp.jp/

あけましておめでとうございます

特定医療法人弘友会 理事長
加戸病院 院長
加戸（かと）　秀一（しゅういち）

収束しつつあるように思われたコロナウイルスもオミクロン株が猛威をふるっておりますが、今のところ重症者数、死亡者数は陽性者数に比べ増えておりません。オミクロン株が感染しやすい風邪になってきたのか、ワクチンが効いているのかは不明ですが、まだまだしっかりした予防が必要な状態は続いております。それでも欧米諸国にくらべ日本の陽性者、死亡者数は少ないことは明らかです。ワクチン接種率が高いと言う理由もあると思いますが、同等の他国との違いはマスクの装着率ではないかと思われます。

欧米とのマスク装着率の差は日本語の特異性にあると言う話を聞きました。日本語はわずかな口の動きで話ができるため欧米に比べ口の表情が乏しく、故に「目は口ほどにものを言う」「目が笑っていない」など目で人の心を理解するため、口を隠すマスクに抵抗がなく目を隠すサングラスに抵抗があるとのこと。対してインドヨーロッパ語族では口を大きく動かし話すので口元の表情が豊かなため口元を隠すことに対して抵抗があり逆に目を隠すサングラスに抵抗がないとのこと。なかなか面白い考察だと感心しておりました。

まだまだマスクを手放せない日々が続くとは思いますが、願わくばコロナの収束、少なくともコロナと共存する環境に適応しつつ前向きに明るく暮らせる 1 年になるよう願っております。

加戸病院は新築･移転10周年を迎えました

加戸病院は平成 23（2011）年 11 月 11 日に内子町に新築・移転しました。特に内子町の皆様にはご支援いただき、深く感謝申し上げます。加戸病院は患者さんを中心とし、信頼され、安心して受診していただくことを目指し、医療・保健を通じて地域社会に貢献することを使命としています。今までのかかりつけ医にかかりながら当院の検査やリハビリを受けることもできます。今後も「『患者の権利』に関する宣言」（http://kato-hp.jp/publics/index/21/）に沿うよう努力してまいります。

～新病院１０周年を振り返り明日に向かって～

加戸病院管理師長 藤田久代（ふじたひさよ）

この原稿の依頼を受け「内子に来てもう１０年たったのか、長いようであっという間だったな」と、とても感慨深く移転時の慌ただしさを思い出しました。内子移転が決定し、移転と同時に電子カルテのオーダリングも開始になるということで、新病院の設計やレイアウト、引っ越し準備、入院患者さんの移送、電子カルテの勉強等職員は通常業務に加え毎日遅くまで取り組みました。シミュレーションを重ね、一番不安であった入院患者さんの移送もスタッフの頑張りと消防署の協力のおかげで問題なくスムーズに行えました。移転後は内子町の病院として地域住民の皆様にいち早く受け入れていただけるよう職員一丸となって努力しましたが、私たちの至らないところも多々あり待ち時間や対応でご迷惑をかけたこともありました。しかし、入院アンケートや外来アンケートの結果を見ると、ありがたいことに皆様からの感謝の言葉が多く、内子町にとって少しは役立っていることを実感し、とてもうれしく思いました。もちろん、厳しいご意見もあり、その度に院内で話し合い日々改善に向け努力しています。この１０年で加戸病院を開院した加戸弘二会長や、早期からご尽力いただいた柴田大法元教授を見送り悲しいこともありましたが、新しく内科の中坊医師を迎え、より一層医療体制の強化が図れています。再編でやむなく療養病棟を休止しましたが、一方看護体制の変更により、更に患者さん一人一人に寄り添ったケアを提供できるようになりました。今ではチーム医療という言葉は当たり前になっていますが、当院でも他職種間で連携を深め、患者さん個々に応じ取り組んでいます。私ごとになりますが、内子に来たときは外来師長それから病棟師長を経て現在管理師長の立場にあります。未熟な私が今日あるのは患者さんやご家族様、そして何より周りのスタッフに恵まれ仲間に支えられたおかげだと感謝でいっぱいです。現在もコロナ禍で入院患者さんの面会中止や感染予防対策等まだまだ厳しい日常が続いていますが、これからも「地域に根差した病院」として医療の質の向上を図り、住民の皆様に寄り添った医療を提供できるよう努めてまいりたいと思います。

～移転から１０年～

加戸病院事務長 大野隆司（おおのりゅうじ）

加戸病院は、平成２３年１１月に内子町からの強い要望によって大洲市から移転し、早いもので１０年が経過しました。

移転に際して、①救急告示救急輪番制の維持に努めること②移転開設後１０年以内に社会医療法人又は特定医療法人へ経営形態を移行することを目指すことが内子町との協定に盛り込まれました。救急に関しては昨年より夜間の受け入れを辞退することとなりましたが、後者については平成２９年度に特定医療法人の認定を受けることができました。特定医療法人とは出資者の持ち分を放棄した法人であって、より公益性が高い国税庁より承認を得た医療法人のことです。今後も地域の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

当法人の理念にもあるように、患者さんの立場に立った良質で人間的なサービスを提供し、信頼していただける病院になれるよう、病院スタッフが一丸となって、あたたかくサポートいたします。今後も地域の皆様に安心して診療を受けていただける病院を目指してまいります。

八幡浜市「浜っ子作業所」さんよりお菓子をいただきました（8月～10月）

コロナ禍が続く中、８月から１０月の間に３回に分けて、八幡浜市にある就労継続支援 B 型事業所「浜っ子作業所」の方が来院され、焼き菓子や雑貨、直筆のメッセージなどをご提供いただきました。大野事務長が代表として受け取り、院内の各部署に配りました。皆さまからの心のこもった応援に深く感謝申し上げます。地域に根差した地域住民のための病院として職員一同努力いたしております。本当にありがとうございました。

浜っ子作業所から寄贈される大野事務長

机いっぱいのお菓子など

かと保育園から病院移転10周年のお祝い（11/11）

かと保育園の園児が病院移転１０周年となる１１月１１日（木）に作品を持って駆けつけてくれました。「たんたん・たんたん・誕生日―」の歌を歌いながら『１０さいおめでとう』と書かれたデコレーションケーキの絵に１０本のろうそくを園児たちが立てました。加戸院長が代表として作品を受け取りました。作品は加戸病院玄関に飾ってあります。

園児たちと１０本のろうそくを立てた作品
かと保育園も移転日に敷地内の病院裏に開園しました。

作品を受け取る加戸院長

マリンバ演奏会　IN　加戸病院（11/20）

１１月２０日（土）１１時から加戸病院リハビリテーション室で入院患者さん・かと保育園・病院職員を対象に、内科・中坊麻利医師によるマリンバ演奏会を開催しました。曲目は、エーデルワイス、テッサロニキ（ギリシャの都市名）、イエスタディ、ハバネラ（カルメン）、ロマンチカの５曲でした。マリンバ演奏中のリハビリテーション室は心地の良い空間となりました。分解して普通車で運べること、音色の変え方などの説明も楽しく、生演奏を堪能しました。患者さんからは「見たことも聞いたこともない楽器なので聴けて良かった」「いい気分転換になった」「懐かしい歌があって楽しかった」「とても癒された」と涙を流していた方もおられました。今回の演奏で少しでも新型コロナのストレス発散になれば幸いです。

マリンバ演奏中

約30名の方が演奏を堪能しました

園児による花束贈呈

内子町リハビリ有志会　畑中サロン（11/9）

１１月９日（火）内子町畑中地区の住民を対象に、畑中自治会館で言語聴覚士による講話と作業療法士によるリハビリ体操（うちっこ体操）を開催しました。運動不足や、独り暮らしによる外出機会の減少、認知症の心配を解消することが開催の目的です。サロンでは誤嚥（ごえん）性肺炎の予防に、口腔ケアや飲み込みに関する意識を持ってもらうための講話と、肩こりや腰痛等の緩和にモビリティトレーニングバンドと呼ばれるゴムチューブを使って、有志会オリジナルの「うちっこ体操」を行いました。参加者からは、「肩の痛みが減った」「歩くのが楽になった」「畑の仕事ができるようになった」など身体機能面の改善だけでなく、「楽しく過ごせるようになってきた」「みんなで話をするのが楽しい」など精神的にも良くなったとの声がありました。今後も地域の方が住み慣れた場所で元気に生活できる地域づくりに貢献したいと思っています。

講話で口腔ケアの大切さを伝えています

うちっこ体操をする参加者の皆さん

栄 養 だ よ り

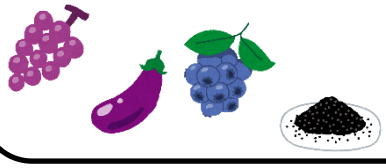
疲れ目対策

冬は季節の中でも気温や湿度が低くなり乾燥を感じやすい季節です。更に暖房が効いた室内でパソコンやスマホを見ているとまばたきの回数が減り、目の表面をおおっている水分が減り、なお乾燥してしまいます。この状態が続くと目を保護している角膜が傷つくなど、目のかすみ、充血といった疲れ目の症状に悩むことになり、目の健康を保つことが難しくなります。今回は簡単にですが疲れ目対策を紹介したいと思います。

対策①：目の休憩時間をとる
対策②：目薬を使用する
対策③：エアコンの風量を調節する
対策④：加湿を心掛ける
対策⑤：ホットタオル(温かいおしぼり)で目を温める
対策⑥：ビタミンＡとアントシアニンをとる

★ビタミンＡ・・・目・鼻・のどの粘膜や、皮膚のうるおいを保ちます。
動物性食品のレバー(鳥・豚)やうなぎのかば焼き、ほたるいか等などに含まれる「レチノール」と植物性食品のかぼちゃや人参、ほうれん草に含まれる「カロテン類」があります。カロテン類は体内でレチノールに変わってレチノールの働きをします。

★アントシアニン・・・ポリフェノールの一種で、ぶどうや茄子の皮、ブルベリー、黒ゴマなどに含まれる青紫色の色素成分です。目の疲労を回復する働きが期待されます。



特に冬野菜にはβカロテン、ビタミンＣが多く含まれ、免疫力を高めて風邪予防にも効果的です。動物性食品は脂肪も多いため摂りすぎに注意が必要です。

老人保健施設フレンド管理栄養士　宮内景子（みやうちけいこ）

私たちの仕事 vol.1　～臨床検査科～

臨床検査技師　平野（ひらの） 吉則（よしのり）

当院の検査科は現在３人少数精鋭で業務を遂行しています。仲の良さが自慢の検査科で、なんでも話せる雰囲気があり、明るい風通しの良い環境で毎日業務に励んでいます。

現在医療の分業化が進んで、臨床検査技師は医師の指示により、適切な診断と治療をするために不可欠な存在になっています。臨床検査は大きく分けて２つあります。１つは患者さんから血液・尿・便などを採取してその成分を分析する検体検査業務（血液・生化学・一般・細菌・免疫・凝固・輸血検査など）であり、もう１つは、患者さんの心臓・腹部・肺などの検査を行う生理機能検査（心電図・超音波検査・肺機能検査など）です。加えて結果から得た情報を解析する業務も行っています。

また、チーム医療の一員として、糖尿病透析予防チーム・ＮＳＴ（栄養サポートチーム）・ＩＣＴ（感染対策チーム）などにも参加し、患者さん中心の医療に取り組んでいます。

医療の進歩とともに新しい検査も増え、質の高さが求められる中、検査科として知識・技術の向上に取り組んで、より良質な検査結果が提供できるように日々精進していきます。

ワクチンの効果を確かめるための新型コロナ抗体検査（アボット社）ができます。費用は 4,400 円です。結果は 3～5 日かかります。ご希望の方は、事前にお電話にてご予約をお願いします。

外来担当医のお知らせ（２０２２年１月４日～）

受付時間：午前８時３０分～午後４時３０分（土曜日は午前１１時３０分まで）

お見舞い・面会時間：現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、原則面会禁止とさせていただきます。

※期間限定でオンライン面会を実施しています。詳細はお問い合わせください。

診療科		月	火	水	木	金	土
内　科	午前	平澤 中坊	中坊 糖尿外来 （第１のみ）	平澤 中坊	平澤 中坊	平澤 愛大医師	平澤／東 淡野（2回/月）
	午後	平澤 中坊	中坊	平澤 中坊	平澤	平澤 愛大医師	
外　科	午前	下田	加戸	下田	加戸	下田 小川	加戸
	午後	下田 （16:30～）	下田	加戸	下田	小川	
整形外科	午前	城戸	城戸	城戸	城戸 （予約のみ）	城戸	
	午後	城戸 （16:00～）					

※ 手術などのため、変更になる場合があります。

※ 火曜日の午前中に子宮がん検診を、城戸美穂医師（女性医師）が実施しております（予約制）。

当院は敷地内禁煙を実施しています。ご理解、ご協力をお願いします。